

筑後川橋梁基礎工事

46.8 下路構架 2 連
 25.78 可動桁 1 〃
 (リフト27m)

總延長は 506.m10 に及ぶ筑

鐵道省熊本建設事務所長

工學士 釘 宮 磐

筑後川橋梁基礎工事施工者 熊本建設事務所
 同上 請負者 飛 島 組

1. 橋梁の位置

本橋梁は長崎本線佐賀驛と鹿児島本線矢部川驛とを結ぶ佐賀線中、佐賀地點 9k007.m7 の地點に介在するもので次の徑間より構成されて居る。

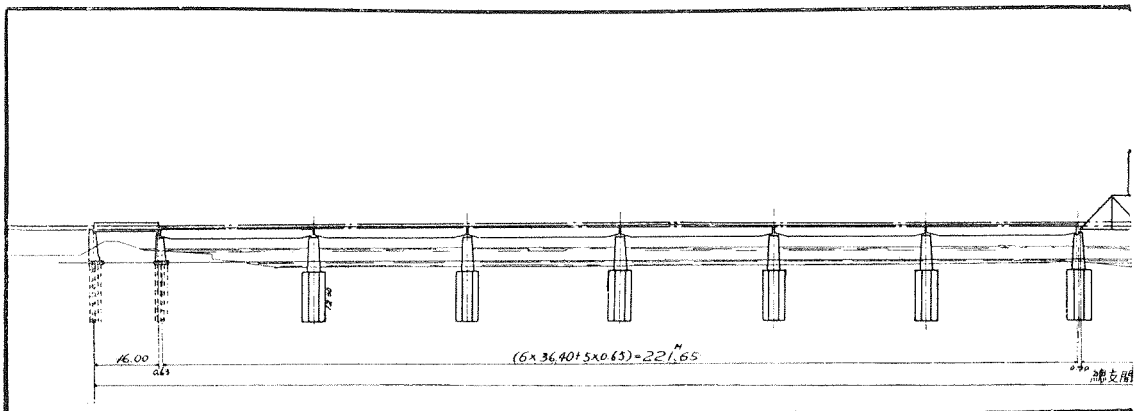
| | | |
|-------|-----|-----|
| 12.m9 | 下路桁 | 1 連 |
| 16.0 | 〃 | 1 〃 |
| 23.3 | 上路桁 | 1 〃 |
| 36.4 | 〃 | 1 〃 |

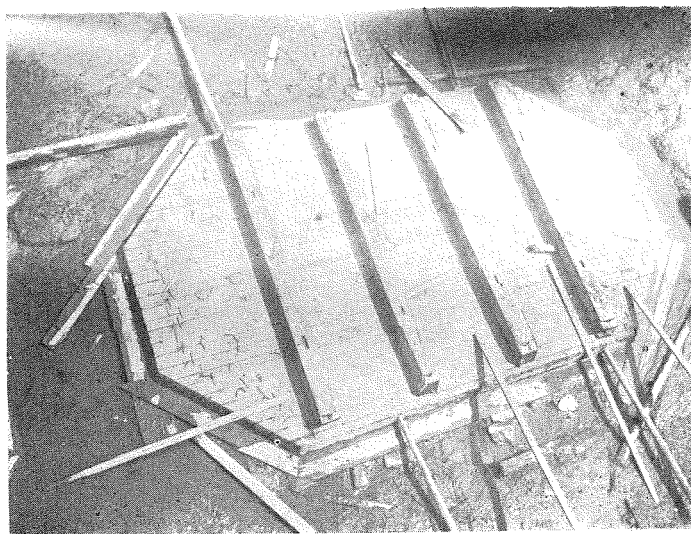
2. 地勢地質

筑後川は一名千年川と稱し、古は筑間川とも呼び、筑紫次郎又は一夜川の異名あり、本邦14大川の一であつて、九州第一の大河である。源を熊本縣の東北久住山に發し、大分、福岡、佐賀の三縣内を貫流して有明海に注ぐ、本橋梁架設地點附近の流速は最大約3米、潮位は最高+3.15米、最低-0.25米、その干満の差約3.5米である。

河底地質は、河底約1—5米位迄は極めて不安定なる細粒の漂砂で、その下約10米許りの砂交り粘土を抜けば、厚さ約3米の砂利層が現はれるのである。

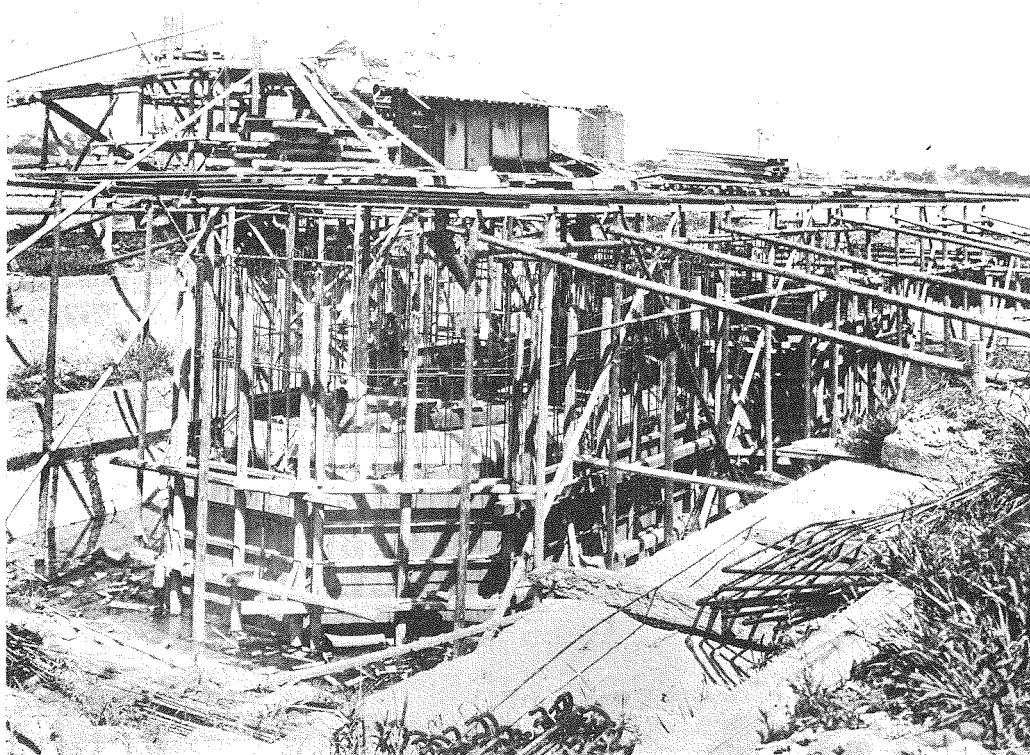
3. 設計及施工

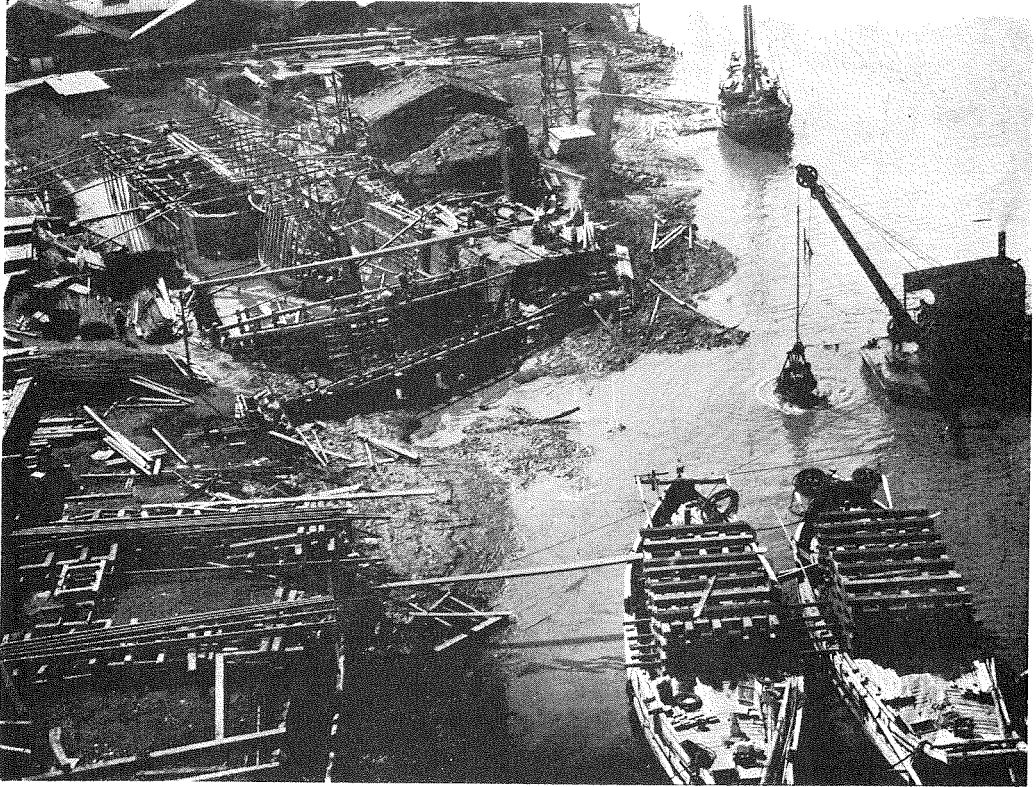




(1) 佐賀線筑後川橋梁工事
ドック内にて井筒を浮す爲の
假底(木製20糎角材)を布設
する。

(2) 佐賀線筑後川橋梁工事 ドック内に
て鐵筋コンクリートの井筒を造る。

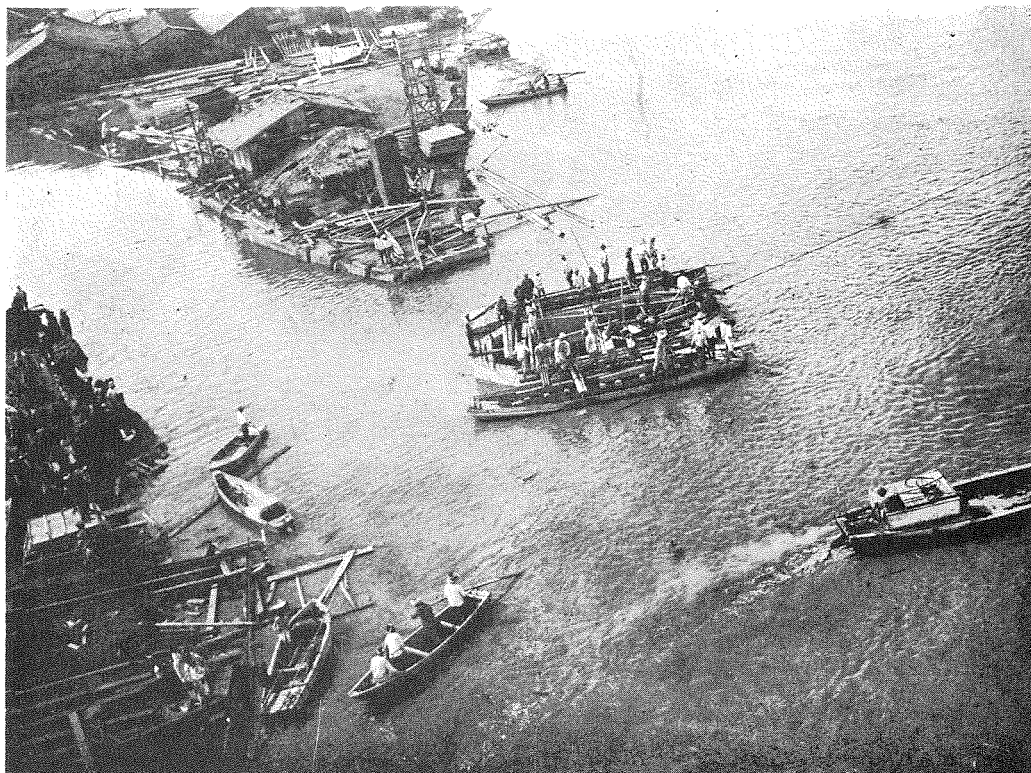




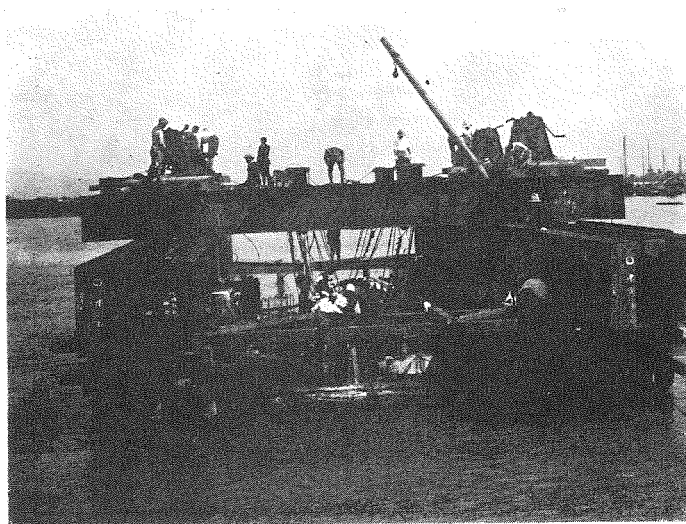
(3) 佐賀線筑後川橋梁工事 ドック内で
第一回の井筒製作、同時にドックゲートも
造つてゐる。



(4) 佐賀線筑後 橋梁工事
満潮時にドックか、井筒を曳
出す。井筒はそれ自體が浮揚
する。兩側の舢舨は補助であ
る。

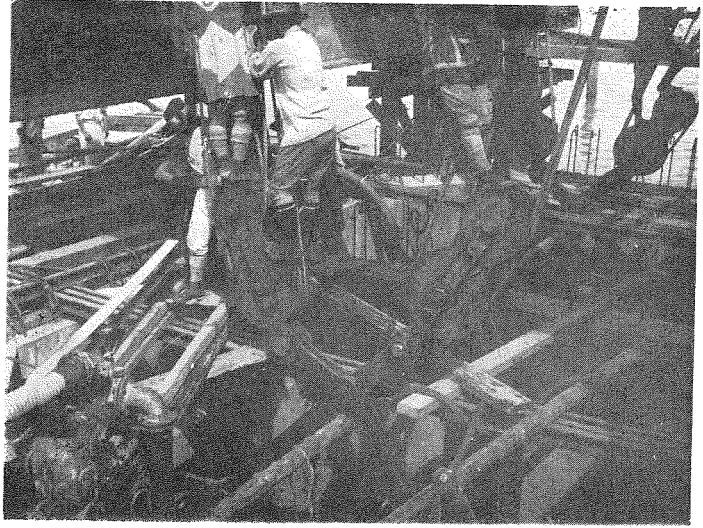


(5) 佐賀線筑後川橋梁工事 曳出された
井筒はまさにドツクを離れんとしてゐる。

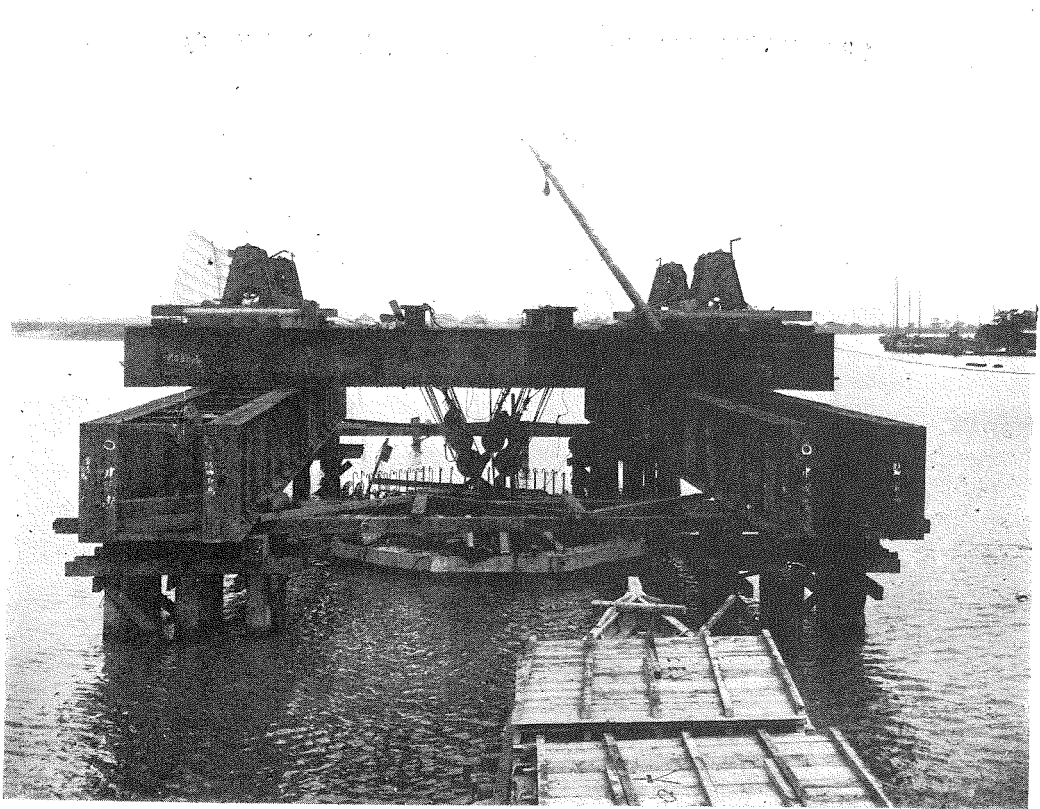


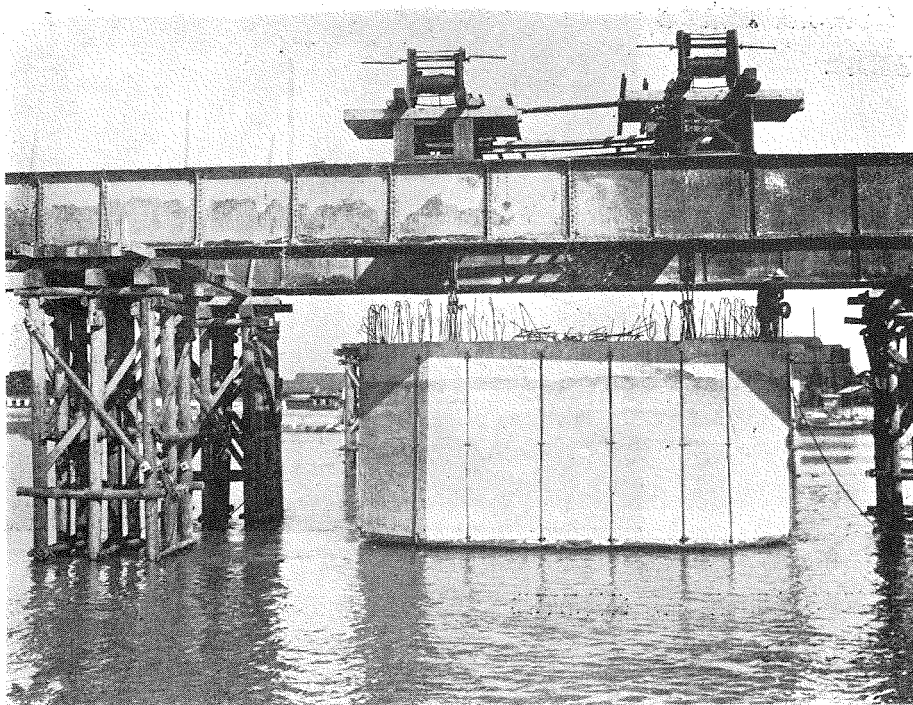
(6) 佐賀線筑後川橋梁工事
井筒吊取其一、満潮寺ドツク
から曳出し現場の吊取足場に
吊取る。

(7) 佐賀線筑後川橋梁工事
井筒吊取其二



(8) 佐賀線筑後川橋梁工事 井筒吊取其
三、満潮時である。





(9) 佐賀線筑後川橋梁工事 井筒吊取其四、干潮時である。井筒周圍の豎線はゼツト用のパイプ

(10) 佐賀線筑後川橋梁工事 井筒掘鑿足場(エセクターによる)

